

「さくらんぼ」にこだわり地域の発展に貢献する農業法人 ～ピンチをチャンスにビジネスを変革！～

株式会社やまがたさくらんぼファーム 代表取締役 矢萩美智（天童市）

1 受賞者の概要

矢萩代表は、天童市川原子地区で観光果樹園を経営する3代目であり、平成23年の代表取締役就任時に、有限会社王将果樹園から株式会社やまがたさくらんぼファームに社名変更した。代表就任後、2度の大きな困難（東日本大震災、新型コロナ感染症拡大）を契機として加工品開発、非接触型の販売（通信販売、自動販売機の設置）の拡充によってピンチをチャンスに変え経営基盤を大きく発展させてきた。

2 特色ある活動

やまがたさくらんぼファームは、果樹生産・観光・加工・飲食・販売の5本の柱で農業経営を展開しており、さくらんぼ、西洋なし、ももなど観光果樹園を基盤に、さくらんぼ栽培を中心として規模拡大を行う中で、ハウス設置や晩生品種の導入により、収穫期間の長期化を図っている。

全従業員とその家族の幸せを追求することを経営理念の一つに掲げ、従業員の家庭事情に配慮した変則シフトによる労働時間制の導入、女性従業員に配慮した施設の設置など、従業員の就業環境の改善に積極的に取り組むとともに、主担当以外の部門に従事させ、各部門の仕事を理解できるようにするなど、従業員の人才培养を高める工夫を行い法人としての総合力を高めている。さらに、障がい者施設の施設外就労を受け入れ、ここから障がい者の直接雇用にも積極的に取り組むなど多様な人材を受け入れており、農福連携にも寄与している。

3 今後の発展方向

川原子地区は、農家の高齢化が進展しており、今後も農地の継承が課題となる。矢萩代表の信念に基づき、耕作者がいなくなる樹園地を可能な限り引き受け、樹園地を維持・管理し、次代の担い手となる果樹経営者に継承することとしている。

そのために、持続可能な農業を実践し、気候変動に対応した安定生産を目指している。具体的には酸果オウトウの露地栽培などを増やしていくこととしており、雨よけを必要としない栽培、加工用途のさくらんぼ、ぶどう栽培を増やしていく計画である。



やまがたさくらんぼファーム職員